

科 目 名

プランニング序説 Introduction to Planning

2年 前期 2単位 必修

田 代 敬 大

概 要

問題解決のための計画学には、個人の計画から企業・組織の計画、多数の市民・国民による公共計画に至るまで、一般的で共通した考え方がある。たとえば、課題の発見・整理、現状調査・分析、予測、代替案作成、評価といった手順である。ここでは、全体的な手順と課題の発見・整理、代替案作成、評価を中心に諸手法を概説し、講義・演習・レポート等を通して、計画学の全体像の把握と基礎的考え方が適用できることを目標とする。

目 標

- 1) 計画学の基本的な概念と考え方を理解する。
- 2) 表計算ソフト等を活用して、計画学の簡単な計算法を修得する。

授業計画

| テ ー マ | 内 容 |
|-----------------|-------------------|
| 1) 計画学の意義と対象 | 問題解決のための計画学の意義と対象 |
| 2) 計画の基本性格 | 目的と手段、マネジメントサイクル |
| 3) 全体計画の手順 | システム分析と全体的計画手順 |
| 4) 課題発見 | 課題発見の手法 |
| 5) 課題整理 | 課題整理の手法 |
| 6) 課題発見・整理の演習 | 演習 |
| 7) 現状調査 | 資料収集と資料整理の方法 |
| 8) 現状分析 | 資料分析の概要 |
| 9) 予測 | 予測の意義と予測手法の概要 |
| 10) 代替案作成 1 | 代替案作成の発想と手順 |
| 11) 代替案作成 2 | 数理計画法の概要 |
| 12) 代替案評価 1 | 評価の意義・課題、手法の概要と手順 |
| 13) 代替案評価 2 | 費用便益分析 |
| 14) 代替案作成・評価の演習 | 演習 |
| 15) 定期試験 | 成績評価 |

授業方法

教科書と配布するプリントを基に講義を行うとともに、計算ソフトを活用した演習を行う。

学習到達度の評価

- 1 授業中に教員より質問し理解度を促す。学生からは授業中・後に質問を受け授業を補足する。
- 2 適宜、レポートを課して、授業の理解度および発展学習を促す。
- 3 学生による授業評価、学生自身による自己評価の結果が出た時点で今後の授業の参考とする。

評価方法

レポート、定期試験の成績等を勘案して評価を行う。

教 材

教科書：渡辺健介『世界一やさしい問題解決の授業』（ダイヤモンド社）、高橋 誠『問題解決手法の知識』（日経文庫）およびプリント。

参考書：横手光洋『ロールプレイで学ぶ経営数学』（講談社）